

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 15 日現在

機関番号：25407

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2008～2012

課題番号：20330169

研究課題名（和文）戦後沖縄における教育実践史研究

研究課題名（英文）A study of educational practice history in postwar Okinawa

研究代表者

齋木 喜美子（SAIKI KIMIKO）

福山市立大学・教育学部・教授

研究者番号：30387633

研究成果の概要（和文）：

4年間の研究成果は以下の通りである。

1. 伊波常雄教育関係資料を保管するうるま市石川歴史民俗資料館と共同して資料を整理し、同資料の目録とCD-ROMを作成・発行した。
2. 戦後沖縄、とりわけ占領期の沖縄教育の実態と課題について研究を深め、研究メンバーがそれぞれ成果を発表した。また、各自の研究論文とシンポジウムの記録、聞き取り調査の内容などをまとめ、最終年度に研究成果報告書として刊行することができた。
3. 最終年度に、うるま市石川歴史民俗資料館とうるま市教育委員会の協力を得て資料展示会とシンポジウムを開催し、地元メディアにも大きく取り上げられた。
4. 伊波常雄教育関係資料リスト、検索用CD-ROM、研究成果報告書を国内外の主要な図書館や研究機関に送付し、一般にも研究成果を発信できた。
以上、今後の占領期教育実践研究進展のための基盤づくりができたことを踏まえ、当初の計画通りの成果を上げられたものとする。

研究成果の概要（英文）：

The results of the 4-year study are as follows:

1. The Iha Tsuneo educational materials have been arranged in collaboration with the Uruma City Ishikawa Museum, where the materials are currently being stored. In addition, a catalog listing and CD-ROM have also been created and published for the materials.
2. During the last year, we were able to hold an exhibition and symposium for the materials with the help of the Uruma City Ishikawa Museum and the Uruma City Board of Education. The two events both received a considerable amount of media coverage.
3. Researchers presented the results of their individual projects with regards to their deepened efforts to understand and show the actual conditions and issues facing education in post-war Okinawa with particular attention being given to the period of occupation. Furthermore, the research papers of each researcher as well as symposium records and survey details were able to be summarized and published as a research report.
4. The Iha Tsuneo educational materials list, searchable CD-ROM, and research report have all been sent to major libraries and research institutions in both Japan and overseas, and, in general, the results of the research have been successfully disseminated.

It can be thought that results so far have been going according to our original plan, and we are continuing to carry out our work based on the research foundations that we have created for promoting the practical study of education in post-war Okinawa.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
20年度	4,300,000	1,290,000	5,590,000
21年度	3,700,000	1,110,000	4,810,000
22年度	3,700,000	1,110,000	4,810,000
23年度	2,600,000	780,000	3,380,000
年度			
総計	14,300,000	4,290,000	18,590,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学

キーワード：沖縄 占領期 教育実践史 ガリ版教科書 伊波常雄 所蔵資料リスト 教員研修制度 教員養成

1. 研究開始当初の背景

戦後沖縄の教育実践に焦点化して本研究をスタートした契機は、2006年6月に大阪歴史博物館で開催された特集展示に関わったことであった。「あのころ、こんな子どもの本があった―戦中・戦後の絵本から教科書まで」という企画で、メンバーの一員だった沖縄出身の齋木が、「沖縄―占領の光と影―」というコーナーを担当することになった。この企画は、敗戦とアメリカによる占領期(1945―1952)における子どもの暮らしや教育の実態を、児童雑誌や絵本、おもちゃ、教科書などを通して振り返ることを主眼にしたものであった。だが「占領期」自体、現代の日本人にはあまりにも実感のない時代であり、当時のGHQの占領政策やその過程で行われてきた出版物検閲の実態など、具体的な資料で辿っていくことは大変困難な仕事であった。ましてや沖縄は、戦中に日本で唯一激しい地上戦が繰り返され、その後27年にもおよぶアメリカの直接占領下に置かれた地域である。当然のことながら本土とは著しく異なった戦後を辿ることを余儀なくされ、出版物や教育状況も本土とは一括りにできない特徴を持つことになった。一体どのような資料をどう展示すれば、沖縄の特異な状況を一般の来館者にわかりやすく示すことができるのか――。試行錯誤を重ねつつ資料の選定を進めていたとき、戦争直後の沖縄のガリ版教科書やノート類を大量に所蔵しているという個人収集家の伊波

常雄(1931―2007)に出会ったのである。結果的には、これらの資料を展示に活用させていただいたおかげで、来館者にも当時の沖縄教育現場の実態がリアルに体感できたものと思っている。

展示会終了後に伊波は病気のため他界したが、我々は彼の遺した貴重な資料群を整理・保管し、今後の沖縄教育研究に生かしてゆく方途を探ることにした。

2. 研究の目的

本研究の目的は、沖縄の一教師だった伊波常雄(1931―2007)が40年以上にわたる教員生活の中で蓄積してきた教育資料を中心に、他の教育史料の調査・整理の成果、聞き取り等を援用することによって戦後沖縄の教育実践を解明しようとするものである。これまでの沖縄戦後教育史研究においては、長年のアメリカ占領という事情が背景にあったため、教育運動研究、社会教育研究、教育行政研究などに一定の到達点が見られた。しかし、教育実践史研究に関しては、当時教育現場にいた教員や子どもたちの具体的な記録や日常の教育実践資料が乏しく、この分野での研究には立ち遅れが見られた。本研究では、一教師の日常的な教育実践資料を中心にすえながら、戦後教育実践の側面を描きつつ、戦後の教育現場の実態や課題を浮き彫りにすることを目指している。

3. 研究の方法

その手立てとして、まずはじめに膨大な

伊波教育関係資料について整理し、目録および資料検索用CD-ROMを作成して一般の利用に供する体制を作る。続いて資料を中心に読み解きつつ周辺教育資料を調査し、戦後の沖縄教育の実態、実践の状況や課題を分析する。教育実践のみならず、教員養成や教員研修、教員の自己形成過程等についても考察を深め、沖縄の戦後教育についてまとめる。

また、研究成果のまとめとして、最終年度には伊波教育関係資料の展示、戦後教育に関するシンポジウムを開催するとともに、研究成果報告書を作成して一般への研究成果の周知を図る。

4. 研究成果

上記で挙げたそれぞれの研究課題に沿って以下のように研究を行い、成果をあげた。

(1) 資料整理とリストおよびCD-ROMの発行

- ①資料リストを発行し、沖縄のみならず国内外の主な研究機関、図書館などに情報提供した。
- ②とりわけ貴重な資料はマイクロ化し、保存を図った。
- ③マイクロ化した資料については紙媒体に製本し、さらなる利用の便宜を図った。
- ④資料リストの検索に一層の便宜を図るため、「伊波常雄教育資料目録」検索用CD-ROMを作成し、発行した。

(2) 研究成果の発表と展示会・シンポジウムの開催

- ①戦後沖縄、とりわけ占領初期の教育実践の実態調査を行うとともに伊波の残した日記、当時の学級日誌、児童の学習帳などを詳細に検討した。おもに1950年代における沖縄の国語教育実践の実態と課題について明らかにし、研究代表者の齋木が日本教科教育学会第37回全国第37回全国大会において発表するとともに、論集にまとめた。
- ②豊濱光輝氏や伊波則雄氏、新里律子氏など、伊波常雄の元同僚の教員へ聞き取りを行い、資料の裏付けを図るとともに、当時の教育現場の抱えていた問題を明らかにし、研究代表者の齋木が研究報告書にまとめた。
- ③おもに1950～60年代の沖縄の教員養成・研修については、研究協力者の櫻澤がまとめ、論文研究報告書に掲載した。

④復帰前の平和教育実践については、新・旧教員間に意識の格差があることを教員としての自己形成史の過程から明らかにし、研究分担者の森田が『教職研究』第21号および第22号に研究成果をまとめた。

⑤研究の経過の中でとりわけ重要な問題として浮かびあがってきた「宮森小学校ジェット機墜落事件」について取り上げ、伊波教育資料や沖縄公文書館資料、当時の教員たちへの聞き取り調査等をもとにまとめた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 5件)

(1) 櫻澤誠・真栄平房昭「[インタビュー]

戦後沖縄における一教員の経験と実践

青年会活動・教育運動・石川宮森小ジェット機墜落事件—豊濱光輝氏に聞く—

『ノートルクリティーク』第4号、査読無、2011年、2～73頁。

(2) 森田満夫「戦後沖縄における平和教育実践考—新・旧世代教員の自己形成を手がかりに—」『教職研究』第21号、査読無、2011年、71～86頁。

(3) 森田満夫「戦後沖縄における平和教育行政考—課題と可能性—」『教職研究』第22号、査読無、2012年、91～109頁。

(4) 齋木喜美子「占領期沖縄の国語教育実践の実相と課題—伊波常雄教育関係資料をめぐって」『日本教科教育学会第37回全国大会論文集』、査読無、2011年、136～137頁。

(5) 櫻澤誠「石川・宮森小ジェット機墜落事件に対する補償問題の展開—戦後沖縄における人権擁護運動の転機として—」広川禎秀・山田敬男編『戦後社会運動史論②—高度成長期を中心に—』査読無、大月書店、2012年3月、175～208頁。

[学会発表] (計1件)

(1) 齋木喜美子「占領期沖縄の国語教育実践の実相と課題—伊波常雄教育関係資料をめぐって」日本教科教育学会第37回全国大会、2012年11月12日、沖縄大学

[図書] (計2件)

(1) 齋木喜美子『伊波常雄教育関係資料目録』中京女子大学発行、2010年、539頁。

(2) 齋木喜美子『戦後沖縄における教育実践史研究』福山市立大学発行、2012年、173頁。

[産業財産権]

○出願状況 (計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計◇件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]

新聞報道等

- (1) 齋木喜美子「占領期沖縄 児童文化の光と影」1～4、琉球新報朝刊、(2010年10月7.8.9.14日)
- (2) 齋木喜美子「戦後 沖縄教育の歩み」琉球新報朝刊、(2011年8月30日)
- (3)「戦後教育伝える教師の遺品紹介 うるま 伊波さん資料展」沖縄タイムス朝刊、(2012年9月3日)

6. 研究組織

- (1) 研究代表者 齋木 喜美子
(KIMIKO SAIKI)

研究者番号：30387633

- (2) 研究分担者 船寄 俊雄
(TOSHIO FUNAKI)

研究者番号：40181432

- (3) 研究分担者 真栄平 房昭
(FUSAAKI MAEHIRA)

研究者番号：50183942

- (4) 研究分担者 森田 満夫
(MITSUO MORITA)

研究者番号：80279421

- (5) 連携研究者 高橋 正教
(MASANORI TAKAHASHI)

研究者番号：40171524

- (6) 研究協力者 大澤 研一
(KENICHI OOSAWA)

研究者番号：40191936

- (7) 研究協力者 櫻澤 誠
(MAKOTO SAKURAZAWA)

研究者番号：90531666